

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「セブン&アイ、夏ギフトで初のグループ共同企画」
- 2) 「花王、洗濯後に発生する衣類の悪臭の原因菌を解明」
- 3) 「“だれでもトイレマップ”、神戸市が作成・配布」
- 4) 「水田お助け隊、田植えに出動」

1) 「セブン&アイ、夏ギフトで初のグループ共同企画」

セブン&アイグループ各社の総力を結集し、グループ初の共通企画 2011 年『夏のおすすめギフト』を実施する。

「おすすめギフト」15 品目、「東方神起おすすめギフト」5 品目、選べるギフト「ごっつお便」A コース 5250 円、B コース 8400 円、C コース 1 万 500 円の商品をグループで共通に販売する。

セブン-イレブン・ジャパンは「産地直送商品、お取り寄せ系」、イトーヨーカドーは「精肉・青果・鮮魚」、そごう・西武は「銘店、オリジナルギフト」と、各社の強みを活かした全国各地の美味しいものを取り揃える。さらに、アジア各国で活躍中の人気ユニット『東方神起』を起用し、『東方神起おすすめギフト』では、セブン&アイグループの数ある商品の中から選りすぐりの 5 点を選定した。

百貨店まで行かずともコンビニや近所のヨーカドーで注文できる気軽さが特徴の企画だ。グループが大きいのでこれが好評なら年末のギフトや、季節の催事など強みになりそうだ。

2) 「花王、洗濯後に発生する衣類の悪臭の原因菌を解明」

花王株式会社安全性評価研究所は、洗濯後の衣類に発生する雑巾様臭の原因である 4-メチル-3-ヘキセン酸の発生原因となる微生物を初めて分離・同定することに成功した。

一般家庭から雑巾様臭を有する衣類を入手し解析した結果、この微生物はモラクセラ菌と呼ばれる 2 連短桿菌で、洗濯後も衣類に残り、衣類の使用時や衣類の保存中に強い雑巾様臭を発生させることがわかった。また、このモラクセラ菌は保管中の衣類だけではなく、家庭内のさまざまな場所にも存在していることがわかりました。これより、洗濯時には汚れだけでなく、このモラクセラ菌を除去することが大切と考えられる。

将来的にモラクセラ菌を除去できるような洗剤などが開発されるのかどうかはまだ明らかになっていないが、製品化にこぎつけられるのであれば生乾き臭に悩まされたことがある人たちからの幅広い支持を集めることができそうだ。

まだこの菌をピンポイントに除菌できる製品はないようだが、「原因」がわかれば未来は明るい気がする。梅雨時期のこれからは特に生乾きが気になる季節だが、早くこの悩みが解消されることを願う。

3) 「“だれでもトイレマップ”、神戸市が作成・配布」

神戸市内の多機能・多目的トイレを紹介した「こうべ・だれでもトイレマップ」の無料配布が5月19日、市内各所で始まった。

「こうべ・だれでもトイレ」は、車いす対応、オストメイト対応、大型多目的シートまたはベビーシートを標準設備とし、ユニバーサルデザインの観点から配慮・工夫がされた多機能・多目的トイレ。

同市は、2003年度より公共施設とともに民間施設にも協力を得て「だれでもが安心して快適に過ごせるみんなにやさしい“ユニバーサルなまち・神戸”」を目指し、「こうべ・だれでもトイレ」の整備を進めており、現在、三宮バスターミナルや東遊園地などの127施設に設置している。

同施設について、これまで「神戸市ホームページ」や各種イベントなどでPRしてきたが、今回、初めてマップとして発行する。同マップは12ページで構成し、トイレの概要・位置図・設置箇所一覧表を掲載する。

配布場所は、神戸市総合インフォメーションセンター、市政情報室（市役所1号館3階）、その他主要公共施設など。発行部数は5000部、A5版フルカラー12ページ。

この取り組みは市が行っているが、既存スーパーなどで設備の整ったトイレが無い様な店舗が周囲と協力してこういったマップを作成すると、新しいコミュニティを作る手助けになるのではないかと。他にはないサービスとしてのアピール効果もあると思う。

4) 「水田お助け隊、田植えに出動」

熊本県の南阿蘇村地産地消推進協議会の「水田お助け隊」に加わっている富士フィルム九州の社員や家族ら約100人が28日、同村河陰の契約水田で田植えをした。

お助け隊は、都市部の市民らに手伝ってもらいながら水田での涵養や山間地の景観維持などに取り組むという試み。同社が初めて参加した昨年は、3760平方メートルの田んぼから約2.2トンの収穫があり、社員食堂で使われたほかに社員1人当たり10キロの「配当」もあったという。この日は雨の中、坂本敏社長も地下足袋姿で、社員らと一緒に1株ずつ丁寧に植えていった。

お助け隊への登録費は100平方メートル当たり1万8000円。田植え、稲刈りに参加することが必要で、収穫後に玄米40キロ（無農薬は35キロ）がもらえる。4月末現在、1企業79組（団体）が登録しているという。

震災後、助け合いや人とのつながりを強く意識するようになったが、このような取り組みが都市と地方の接点を増やし、農業をもっと身近に感じるきっかけになると思う。

サラリーマンがいきなり農業をするのは難しいが、良い距離感を保てれば楽しむこともでき、日常の息抜きにもなるのではないか。それが高齢者の多い農家の助けになれば一石二鳥だ。